

NJ 素流協 News

令和8年8月10日

第259号

令和8年8月10日発行・発行所 ノースジャパン素材流通協同組合 〒020-0024 盛岡市菜園1丁目3-6（農林会館5階）
TEL 019(652)7227 / FAX 019(654)8533 / <https://www.soryukyo.or.jp>

ノースジャパン素材流通協同組合青年部会 『第6回げんき森林モリフェスティバル』を開催!!

ノースジャパン素材流通協同組合青年部会は、8月2日、岩手県

八幡平市の岩手県民の森オヤマダエンジニアリング八幡平フォレストにおいて、いわての森林づくり県民税を活用した児童・生徒向けの森林・林業普及啓発イベント「第6回げんき森林（モリ）モリフェスティバル」を開催しました。

今年も、「山のしごとコーナー」、「木とのふれあいコーナー」、「展示コーナー」の3つのコーナーを設けるとともに、チェーンソー実演（主催：岩手県グリーンマイスター連絡協議会、親子木工教室（主催：岩手県木材青壮年協議会）が併催されました。雨が降り続くあいにくの天気でしたが、県内外から親子連れを中心に、522名にご来場いただきました。

《山のしごとコーナー》

林業の機械作業の実演を全3回

実施しました。

はじめに併催イベントのチェーンソー実演が行われ、いわて林業アカデミーの修了生で岩手県内の林業会社に勤める2名が、模擬伐倒及び枝払いを行いました。

その後、ハーベスタによる造材作業、フォワーダによる運材作業、チップパーでの破碎作業の実演を行いました。

チェーンソーマンによる安全で正確な実演や、林業機械の迫力ある作業を目の当たりにして、会場からは大きな拍手が起きました。



2人のチェーンソーマンによる実演の様子



2種類のチップパー機であつという間にチップに！良い香りが広がります

フォワーダでチップパー機まで運びます



ハーベスタで2mごとに造材していきます

《木とのふれあいコーナー》

木にふれあって慣れ親しんだり、林業を模擬的に体験できるブースを設けました。

▼丸太切り体験(チェーンソー)

安全のため、フェイスシールド・イヤーマフ付き保護帽、チャップス(刃から足を守る防護用具)、手袋等を着用し、正面には跳ね返りの危険を防ぐためアクリル板を設置。チェーンソーマンの指導・補助のもと丸太の輪切りを体験していました。



▼丸太切り体験(鋸挽き)

スタッフから力の入れ方やタイミングなどのアドバイスや応援を受けながら一生懸命輪切りに挑戦していました。



▼クツプ体験

木の棒を投げて的を倒すゲーム、クツプの体験では、スタッフから投げ方のアドバイスや応援を受けた子供たちが「全部倒したい!」と一生懸命投げていました。



▼枝はらい体験

練習用装置を使って枝払いの作業を疑似体験できるコーナーです。この装置は磁石で取り付けた枝を払い落とす構造になっています。チェーンソーの刃を取り付けず、エンジンもかけないため、だれでも安全に体験ができます。すべての枝を落とそうと熱心に取り組む様子が見られました。



▼木のぼり体験

インストラクターの指導を受けながら専用のロープと安全保護具を使った木のぼりを満喫できるコーナーです。子供たちはすぐにロープの操作に慣れ、記念撮影をするなど賑わっていました。



▼親子木工教室

会場内のふれあい学習館では、岩手県木材青壮年協議会による木工教室が併催されました。今年は「マルチラック」が作製でき、その材料として大船渡森林火災の被害木が活用されました。



《展示コーナー》

林業機械メーカーの各ブースでは、高性能林業機械の実機展示や機械の紹介展示、射的といった子供たちが楽しめるミニゲームコーナー等が行われました。林業機械の運転席に座って記念撮影をしたり、各ブースで楽しんでいる様子が見られました。

また、県民の森のふれあい学習館内では、森林・林業の紹介動画等の上映が行われました。



会場の様子。雨でも多くの方が！メーカー出展も多数



当組合が事務局を務める東北地区原木トラック運送協議会も初ブース出展



機械の運転席に座って気分はオペレーター



協力団体・会社等のご紹介
 公益社団法人岩手県緑化推進委員会／
 岩手県民の森／岩手県林業団体青年部連絡協議会／株式会社レンタルのニッケン／日立建機日本株式会社／日本キャタピラー合同会社北東北地区／イワフジ工業株式会社／住友建機販売株式会社／コマツ岩手株式会社／緑産株式会社／株式会社サナース／株式会社アクティオ／桂田興業株式会社エープラス／株式会社シルバンテック／株式会社諸岡／オカダアイヨン株式会社／東北地区原木トラック運送協議会／ツリークライミング®クラブやまねっこ／いわて林業アカデミー

イベント開催にあたり、ご協力をいただいた多くの皆様に深く感謝申し上げます。



トピックス

伐採搬出・再造林ガイド
ライン全国連絡会議通常
総会が開催されました

7月22日、伐採搬出・再造林ガイドライン全国連絡会議の第5回通常総会が開催され、吉田経営企画課長がオンライン出席しました。

今年度の事業計画として、令和9年度に長崎県で開催予定の第9回全国サミットに向けて、共催団体である長崎県森林組合連合会と連携しながら実施計画の検討や開催準備を進めることとなりました。

また、今年度は高知県において、地元行政や林業事業体等と連携した第3回ミニサミットを開催し、地域に根ざした活動の推進を図ることとなりました。

情報発信については、引き続きニュースレターの発行やホームページの充実を図るとともに、動画配信やSNSを活用した広報活動を通じて広く一般への周知に努めるだけでなく、会員に対

して、森林・林業行政の動向や各種制度、関連情報などについて、継続的な情報提供を行うこととなりました。

さらに、連絡会議の活動を全国的に展開していくため、未加入府県の事業者等への働きかけを強化し、組織が一体となって会員加入の促進に取り組むこととなりました。

林団青年部通常総会に
出席しました

7月8日、盛岡市動物公園ZOOMO（岩手県盛岡市）において、岩手県林業団体青年部連絡協議会の第41回通常総会が開催され、当組合青年部会から、野邑真路会長ほか3名が出席しました。

協議会では、今年度も会員団体が主催する活動に対しスタッフ参加等の支援を行うだけでなく、協議会を主としたイベント等に参加することとなりました。

中でも、構成団体として加わっている「もりおか自然共生の森林づくり実行委員会」の活動では、「里山再生」を再整備のコンセプトのひとつに掲げて

いる盛岡市動物公園ZOOMOを核としたフィールドにおいて、多様な主体が参画する森林整備、資源循環、自然環境保全、人材育成等の活動を通じて、盛岡市における里山再生モデルを作るとともに、人と自然の共生社会の構築を目指すこととしています。活動の一環として林業普及イベントを開催しており、今年度も、協議会、当組合青年部会としてブース出展等で協力する予定です。

また、総会終了後には、会員間の交流活動として、ZOOMO園内の危険木処理作業を実施しました。

お知らせ

せっかく育った原木を
全て有効活用するために
―素材生産業者が知るべき最新情報―

「近年の森林資源・素材生産の基準の状況」

1・スギを中心として人工林資源の大径材化

2・手入れ不足による大径材の品質低下

3・手入れの行き届いた高齢級優良材はかつてより価格低下（真壁工法、和室の減少）

4・間伐中心時代から皆伐中心時代へ移行

5・高性能林業機械による労働生産性重視

6・バイオマス発電用原材料の需要が増大

7・需要減少で放置された人工造林地（ウルシ、キリ、エンジュ…）

8・外材にシフトして、円安等の影響で直近高騰している国産広葉樹のニーズが川中・川上へ伝わらない

9・1日1000㎡以上の丸太を消費する超大型工場の国産材転換、新増設工場が続々

【知るべき最新情報】

●バーカーを新設して、元口80cmまでB材大径材の受け入れ工場が登場。

●製材工場向け3m、3・65m切つてみたらA材でなく困ったな…B材受け入れ工場も登場。

●間伐全盛時代に導入が進んだ14cm×24cm上の小径木ライン工場はどれも丸太不足。

- 杭材はカーボンストック効果で8 cm〜14 cmのスギ、カラマツ需要が増大しているが、労働生産性重視で丸太不足(杭材1・5 mの注文が多く、3 m需要大。住宅瑕疵担保履行法で5 m、6 m需要も)。消滅したと思いがちな格天工場も有り(雪国特有の巨大根曲がり材が必要)。樽工場の需要も有り(心材と辺材の境目だけ年輪を詰んで均等で木口がまんまるならOK)。
- 円安もあり広葉樹需要拡大。用材最小径級が26 cm上から20 cmに引き下げ。細巾・大巾ブレンド床板需要もあり。ミズキは4 cm、クリ14 cm上等さらに小径も可。
- 広葉樹B材(曲がり、節の基準が緩い)合板工場利用始まる。
- 本来の需要が低下して放置されたウルシ、キリ、エンジュは別の需要有り。山再チェックで利用。
- 松くい虫の北上は、アカマツ供給が減少し需要夏場も必須。ただし、伐採、玉伐り、出荷を迅速にすれば評価有り。
- クロガキは高い。熊対策で空き家

の柿の木伐採を市町村が支援。伐った木口は要確認。地域とのコミュニケーションが必要。

●従来の製紙用原料材は皮むきが必要。バイオマス用、菌床用等は皮付き破碎。曲がり、多節、大節でも利用可能なので有効活用して林地残材にしない。

●間伐時代と違い、皆伐時代は林道脇に集積して玉伐り。短コロ、末木枝条を有効活用。

●高齢級化粧材工場が無くなったら価値は無くなる。工場の存続が本当に大事。80(70)年生以上の目詰まり、色良しは、大量消費工場向けと別に販売する。特に、人工林周囲にある残し木(超高齢級)は別途販売する。

組合員の皆様、時代が変化しています。最新情報を踏まえて何でもご相談下さい!!

令和8年度 第1回 林業経営講座を開催します

今年度第1回目の林業経営講座と

して、林業機械メーカーの方を講師にお招きし、海外で活用されている最新の林業機械についてお話しただくほか、ニュージーランド林業視察研修の報告、次回の海外視察研修の企画に向けた意見交換会を行います。

1. 開催日

令和8年8月26日(水)

13時30分〜16時30分

2. 場所

コミュニケーションギヤラリー
LiRio 3階イベントホール

(盛岡市大通一丁目11-8)

3. 内容

①講演「日立建機日本の林業への取組〜海外林業機械の最新情報〜」

講師…日立建機日本株式会社

事業本部 事業統括部 本営

業部 業種別・応用製品推進グ

ループ

野口 和也 氏

②報告「令和7年度ニュージーラン

ド視察研修について」

③意見交換「次回海外視察研修開催に向けて」

4. 参加対象者

組合員、賛助会員及びこれらに所属する役職員

詳細は、送付済みの案内文書をご覧ください。

営業部からのお知らせ

〜樹種・材種の不足状況について〜

8月10日時点での樹種・材種の不足状況について以下の通りお知らせします。

●集成材用

国産材への代替需要が増え、スギは制限なく納入可能。

●合板用

接着剤の調達については心配ないが、住宅着工戸数減少の影響もあり、スギの納入制限は続く。一方で、カラマツ・アカマツについては在庫が少なく、引き合いが強い。

●製材用

間柱の引き合いが強まり、特にスギ3 m材(中目材)の引き合いが強い。また、スギ・カラマツの小径木(8 cm〜16 cm)の引き合いもあり。

ノースジャパン素材流通協同組合

公式LINE導入 のお知らせ

 **営業企画部** から 各工場のカレンダー・緊急のお知らせをお届けします



各工場のカレンダーを
お届け

納入日・休業日などの
予定をいつでも確認!



緊急のお知らせを
すぐにお届け

工場の停止・設備トラブルなど
緊急情報を迅速にお知らせ!

運用スケジュール

7月後半

友だち登録開始

LINEの友だち登録を
開始します。



8月

登録・テスト期間

送信いただいた内容の
登録作業を行い、
テスト配信を行います。



9月

本格運用開始

各工場のお知らせを
随時配信します。



ご不明な点等ございましたら
営業企画部 松島までご連絡ください

☎ 019-652-7227

ちよつと気になる木の話

121

青森ヒバの数々の思い出

— 色々あったが、これから
どう利用するか? —

昭和終わりから平成の始めにかけて、国有林の収入は3大美林の天然木曽檜、天然秋田杉、天然青森ヒバが3大ドル箱であった。こうした状況の中、青森ヒバにまつわる出来事に様々遭遇したので、思い出として記録に残しておきたい。

1・伊勢神宮の有名な木橋（内宮の五十鈴川に架かる宇治橋）が水害で壊れてしまい、修復依頼があった。木橋は、20年に一度の式年遷宮の建物に木曽檜が2次活用されるので、木曽檜では供給できず、修復困難で、急ぎよ青森ヒバ供給となった。橋の木は3次活用で、全国の神社に行くはずなので、どこかの神社に青森ヒバがあるかも。

2・青森ヒバの伐採禁止を求める自然保護団体が、自然保護で有名な大学教授をリーダーに下北へ視察をして、伐採禁止を求める動きとなった。どうしたものかと緊張していたが、下北の視察先での地元の人の一言、「下北の青森ヒバのことは下北の人が決める！下北の人でない人が何言ってるのか！」大学教授は次の予定をキャンセルして帰った。この結果、青森ヒバ全面伐採禁止は無

くなった。同行は、前林業機械化協会石井専務だったと記憶している。

3・何といっても青森ヒバに関わる人なら知っている佐井事件である。下北半島の先端にある佐井の国有林にヒバ山を民有林として他の人に売るという詐欺事件である。億単位物件である。犯人は、何回も逮捕されているが刑務所から出所すると再度事件を起こす。刑務所にいないと暴力団に命を狙われると言われている。林野庁にも警視庁が現れた。林野庁の次長印がついた書類で売り渡した証明書の確認であった。「林野

庁次長の公印はありません」で、即公文書偽造である。青森局と秋田局合併の時、「佐井事件で東北局秋田の人」に迷惑をかけたくないので青森事務所に佐井事件担当企画官のポストをお願いします」も忘れられない。

4・もう一つの事件が北海道函館局管内の第一次松山事件である。奥尻地震の時、ヒバ伐採をしていた直営班を、奥尻復旧に急ぎよ派遣した。その伐採箇所を、請負事業体に引き継がせたが、直営班で既に伐採していたヒバ丸太がどこかに運ばれて消滅してしまっただけである。当時、北海道新聞にも大々的に取り上げられた（この記者は、私の大学の林学科の一年先輩だった。結果、ヒバ丸太、青森のヒバの製材所に流れてい

たが、こっそり売り払った人は別なので、買った人は事件とはならなかった。

5・かつての丸太販売の中心だった地元工場随意契約の廃止にあたって、全木連内の国有林部会で業界との会議が開かれた。木曽檜、秋田杉は業界も了承したが、最後まで反対したのは青森ヒバの業界であった。代表は大手なので、組合員の意向を伝えていきますであった。最後には、全国の業界代表の賛成を受けてやっと了承に至った。

6・当時、青森ヒバの銘木クラスを秋田県能代の銘木製材が、市売りで沢山買っていた。ある時、能代の銘木製材から東京の林野庁に電話があった。「青森ヒバの市売りで100㎡の檜が売られているんだけど、これだと1億近くになるんだけど俺しか買えねえ。いいのがあるならいんじやないの」と

た。「独占できるならいいんじゃないの」と回答したが、本音は、キッチリ選別して本当に欲しい丸太だけ買いたいのかな〜と思ひ、指導した記憶である。他にも、東京都の公立高校の図書館に、ヒバ合板を使ったいとの都合連の要望に応じてホクヨープライウッドに販売した。

さて、今、青森ヒバの売れ行きは悪い。これから何に利用すべきかである。天下の銘木、優良材だった青森ヒバの評価をもう一度である。

●銘木クラスは、青森市の市売土場まで運んで、能代、岐阜はじめ全国の銘木業者を

リストアップしてWEB入札をする（丸太の品質を時間の中を持たせて見やすくする）。

●入手が困難になりつつある南洋材、アピトン、ケンパスの堅木代替利用を図る。枕木、トラックボディー材等

●土台材がヒノキに代わる中、大手ハウスメーカー用は量的に無理だとしても、青森県内の地場向けの土台材利用について県の工務店団体と協定を結ぶ。

●青森みちのく銀行と県庁が木材利用促進協定を結ぶ中、公共施設、民間施設への利用を本気で具体化する。

●ヒノキチオール効果を武器に、病院の待合室、病室等利用。患者の枕はヒバチップ入り枕利用を促進。ヒバ合板も活用

●雨に強い性質を踏まえ、工事用仮囲いのLVL利用、公園用ベンチ、フェンス材、外壁材、アスファルト舗装から駐車場の木質化（公共団体のCO2固定量評価をPR）。

●平泉中尊寺金色堂は青森ヒバなので、平泉の街づくりに活用、能登のアテの輪島塗にならって漆器の木地に。

●青森名物のにぼしラーメンの看板、ホタテ、ニンニク、リンゴ等の特産物ケース等に利用（青森名物に青森名物）。

まあ色々思いつくままに書きましたが、加工業者が減る中でも需要があれば、必ず加工業者は出てくることを忘れてはならない。青森クロージドではなく、県外でも使う人がいれば、青森ヒバ丸太にとっては良いことである。

令和8年7月分の販売実績

樹 種	合板・L V L 用			製材・集成材・その他用			計		
	当月出荷量 (㎡)	前月比 (%)	前年同月比 (%)	当月出荷量 (㎡)	前月比 (%)	前年同月比 (%)	当月出荷量 (㎡)	前月比 (%)	前年同月比 (%)
ス ギ	11,211	96.3	93.2	21,098	110.1	107.1	32,309	104.9	101.9
カラマツ	5,793	101.2	86.9	818	167.2	245.4	6,611	106.4	94.5
アカマツ	998	124.1	36.6	0	0.0	*	998	107.0	36.6
その他	7	8.3	*	509	59.3	367.9	516	55.0	372.7
合 計	18,009	98.7	84.1	22,425	108.6	111.2	40,434	104.0	97.2

樹 種	燃 料 用		
	当月出荷量 (t)	前月比 (%)	前年同月比 (%)
ス ギ	6,863	67.8	192.0
カラマツ	4,158	60.6	90.5
アカマツ	369	34.2	72.5
その他	924	53.0	202.9
合 計	12,314	62.2	134.8

樹 種	今 年 度 累 計			
	合板・ L V L 用 (㎡)	製材・集成材・ その他用 (㎡)	計 (㎡)	燃 料 用 (t)
ス ギ	51,307	69,561	120,868	21,365
カラマツ	19,881	2,676	22,557	18,692
アカマツ	5,440	224	5,664	2,702
その他	225	1,923	2,148	3,936
合 計	76,853	74,384	151,237	46,694
目標達成率(%)	30.7	35.6	32.9	38.9
計 画 量	250,000	209,000	459,000	120,000

注) *印は前月又は前年同月実績がなかったことを示す。

【令和8年8月の需給動向】

- 集成材工場では、引き続き国産材への代替需要が進んでおり、原木の引き合いが強まっている。
- 合板工場では、外材入荷への不安やコスト高の影響もあり、代替材としてカラマツ・アカマツへの注目が高まる。
- 製材工場では間柱の引き合いが強まっており、特にスギ3m材の中目材原木が不足している。

耳からウロコ

人生飲み屋がある

ー 本当に行きつけだった安い理由ー

人生振り返ると、あちこち転勤があつて、その場所毎に行きつけの飲み屋さんがあつた。いずれも、その時代時代、廻りの店と比較すると抜群に安かつた。理由は何かだったのか？学生時代、札幌の北18条駅そばのスナックへ通つた。だれもお客さんがいなくても、知らない人はお断りで、一度態度が悪かつた人は床に新聞紙を敷いて飲ませるスタイルである。つまみは客が買ってきて客が料理するので、料金はほぼボトル代だけでカラオケも歌い放題。ママさんは、北海道拓殖銀行の役員の奥様だった。

東京勤務1年目の時は、世田谷の駅そばのスナックへ通つた。同じように知り合いの紹介でないと、入れないスタイル。10時過ぎるとママに付き合つて別のお店へおごりで出かけるのが普通だった。何故か、灘高出身の慶応大学の学生とも仲良くなつた。ママは、小野田セメント(現在は太平洋セメント株式会社)の役員の奥様だった。

京都勤務時代は、借家横の喫茶店兼飲み屋さんに通つた。独身なので晩飯をメニューではなく、作つてサービスしてくれた。飲んでも食堂並みの価格であつた。ママさんは当時全盛期だった磨丸太業者の奥様だった。私は磨丸太製品市場建設担当だった。

再度東京に戻り、先輩のお偉い上司に連れられて四谷3丁目のスナックへ通つた。この店が出店する時に、当時始まりたてだったLVLを注文してカウンターラウンジに使つた思い出がある。ママは、何と帯広営林局職員から大部屋女優になつて、その後スナック開業だった。先輩のおごりと店の改装のお礼？安かつた。

北海道へ異動。南富良野町金山なので、田舎で店はほとんどない。あつた店は本当に安かつた。ママは、当時の職員である専属運転手さんの奥様。安いよね。

再度東京へ戻る。四谷の本当に安いレモンサワー1杯100円の店で飲んで近くのスナックに行つた。東京では格段の安さである。この店は、元はフジテレビの専属スナックだったが、移転でお客さんが減つたところだった。ママも人生の終わりの楽しみだったのかも？振り返ってみると、行きつけの店が安かつたのは、本業でなく、ある意味、趣味の店の色彩が強かつたのが理由かな。もちろん、仕事の関係者は別の意味もあつたかも？盛岡に来てからも、銀行の幹部の奥様の店もあつた。コロナで辞めてしまったけれど。

スナックではないが、東京では、高校の先輩がやつている秋田料理の店(新橋)や中学校の先輩がやつている居酒屋(赤坂)もあつたが、料金サービスというよりは、秋田のつまみを「これだけサービス」だったかなあ。当然、全ての店、ママさん1人で従業員はいませんでした。